

愛知県名古屋市方言の待遇表現

太田 有多子

I. はじめに

(1) 調査対象地：名古屋市は愛知県西部、濃尾平野の中央に位置し、伊勢湾に面している。江戸時代より商業都市として栄えており、東海地方の中心地で、人口は1996年現在215万余名である。名古屋市の中心地は太平洋戦争の戦禍に遭い、それとともにそこで使われていた「上町の言葉」はほとんど消滅し、市内でも農村部だった地域の言葉が現在の名古屋方言の大部分を形成している。

(2) 調査年月日：1996年9月21日・29日

(3) 話者：平林信子 大正14年7月14日生まれ

名古屋市中区(旧呉服町)生まれ(23歳～昭和区在住)

(4) 調査者・調査場所：太田有多子・話者宅

(5) 調査方法：配布の調査票に基づく質問法による面接調査

(6) 表記方法：音声表記はカタカナで表し、中でも[æ:]はエァー、[ø:]はオェー、[y:]はウィーで表す。

アクセントの上がりは「、下がりは」で表し、文末の上昇音調は↗で表す。

A：親しい友人に対して

B：近所の年長の人に対して(丁寧に接する人)

C：土地の目上の人に対して(かなり丁寧に接する人)

D：看護婦さんが年長の人に対して

()は話者の説明で、< >は調査者の注記である。

説明、注記がない限りは、対象者の性差による表現差はない。

II. 調査結果

1. 尊敬表現

1-1. 対者敬語

(1) お前は元気かね

Aア「ーント

オ「ゲ」ンキカ「ネー↗(多) /ゲ」ンキデミ「エ」ルー↗ /オ「ゲ」ンキカナ
「モ↗(古) /オ「ゲ」ンキナケァ「ーモ↗(古・丁寧) /ゲ」ンキニシ「トレ
ァ」ース↗(男性言葉・同等～目下の者に対して) /タッ「シャカネー↗(多)
/オ「タッシャデ」ミ「エ」ルー↗ /オ「タッシャケァ」ーモ(古) /オ「タッ
シャナ」ケァ「ーモ↗(古・丁寧) /オ「カ」ワリ「ネァ」ー「ア↗ /オ「カ」
ワリ「ネァ」ーケァ「ーモ↗(古・丁寧)

B オ 「タク

オ 「ゲ」 ンキニシ 「テラッセ」 ルカナ 「モ」 (古) / オ 「ゲ」 ンキデイ 「ラッセマ」 スカナ 「モ」 (古) / オ 「タッシャデ」 イ 「ラッセ」 ルカナ 「モ」 (古) / オ 「タッシャニ」 シ 「テラッシャ」 ルカナ 「モ」 (古)

C ア 「ンタサマ

オ 「タッシャデ」 イ 「ラッセマ」 スカナ 「モ」 (古)

(2) あしたは家に居るか

A (ア 「シタ」 ウ 「チ」 ニ) イ 「レア」 ース (多) / オ 「レア」 ース / イ 「レア」 ッスカナ 「モ」 (古)

B (ア 「シタ」 ウ 「チ」 ニ) ミ 「エマ」 スカ / イ 「レア」 スワ 「スカナ」 「モ」 (古)

C (ア 「シタ」 ワウ 「チ」 ニ) オ 「ミエニナリマ」 スカ (多) / オ 「イデ」 ア 「ソバサレマ」 スカ / オ 「イデア」 スワ 「スカナ」 「モ」 (古・特に女性に対して) / イ 「レア」 スワ 「スカナ」 「モ」 (古)

(3) あした行くか

A (ア 「シタ」) イ 「ケ」 ー 「ウ」 (ややぞんざい) / イ 「ケ」 ースー / ユ 「ケ」 ースー / イ 「ケ」 ースカ (やや非難調)

B (ア 「シタ」) イ 「ケ」 ースワ 「スカナ」 「モ」 (古) / ユ 「ケ」 ースワ 「スカナ」 「モ」 (古) / イ 「ケ」 ッスカナ 「モ」 (古)

C ア 「シタ」 イ 「ラッセマ」 スカナ 「モ」 (古)

(4) 温泉に行かないか

A (オ 「ンセンニ」) イ 「ケ」 ーセ 「ンカ」 / イ 「ケ」 ーセン / イ 「コメ」 ーカ / イ 「コメ」 ー (少し強い勧誘)

B (オ 「ンセンニ」) イ 「カレマセ」 「ンカ」 / イ 「カレマセ」 ーセン / イ 「ケ」 ースワセ ーセン (特に女性に対して) / イ 「ケ」 ースワセ 「ンカナ」 「モ」 (古) / デ 「カケ」 ースセ 「ンカ」 ー (女性言葉) / デ 「カケ」 ースセ 「ンカナ」 「モ」 (古・女性言葉) / デ 「カケ」 ースセ 「ンカ」 (男性言葉)

C (オ 「ンセンエ」) オ 「デカケ」 ースワセ 「ンカナ」 「モ」 (古) / オ 「デカケ」 ースワセ 「ンカナ」 「モ」 (古) / オ 「イデア」 スワセ 「ンカナ」 「モ」 (古)

(5) あしたはどんな仕事をするか

A (ア 「シタ」 ド 「ユー」 シ 「ゴト」) ヤ 「ルノ」 ー / ヤ 「レア」 ースノー / ヤ 「レア」 ッスー

B (ア 「シタ」 ド 「ユー」 シ 「ゴト」) ヤ 「レア」 ースー / ヤ 「レア」 ッスー / ヤ 「レア」 スワ ス

C (ア 「シタ」 ド 「ユー」 シ 「ゴト」) ヤ 「レア」 スワ 「スカナ」 「モ」 (古) /

ヤ「レァースワ」スカナ「モ」(古)

(6) 見たか

- A ミ「ター」(ぞんざい) / ミ「ヤ」ター / ミ「ヤ」シタカー (やや非難調)
B ミ「ヤ」シター / ミ「ヤースワ」シター
C ミ「ヤスワ」シタカナ「モ」(古)

(7) -1 ゆうべは何時に寝たか

- A (キ「ンノ」ーナ「ンジニ」) ネ「タ」ノー / ネ「ヤ」ター / ネ「ヤ」シター (やや丁寧)

<昨夜はキ「ンノ」ー、もしくはキ「ンノ」ヨ「ル」を使う。ユ「ン」ベは名古屋周辺農村部言葉>

- B (キ「ンノ」ーワナ「ンジニ」) ネ「ヤスワ」シタノ (特に女性に対して) / ネ「ヤ」シタカナ「モ」(古) / ネ「ヤ」シタカナ「モ」(古)
C (キ「ンノ」ーワナ「ンジニ」) ネ「ヤースワ」シタカナ「モ」(古) / ネ「ヤ」スワ「シタカナ」(古)

(7) -2 (看護婦さんが年長の人に) 寝てください

- D ヨ「コニ」ナ「テクダサ」イ / ネ「テ」ョー「デア」ー

(8) どこに行っているか (定期的に)

- A ド「コエ」イ「ト」ルノ
B ド「コエ」イ「テラ」ッシャ「ル」ー / ド「チラエ」イ「テラ」ッセ「ル」ー / ド「チラエ」イ「テラ」ッセ「ル」カナ「モ」(古)
C ド「チ」ー「オ」イ「デナ」ッテラ「ッセマ」スカナ「モ」(古) / ド「チ」ー「イ」ッ「テラ」ッセ「マ」スカナ「モ」(古)

(9) どうぞ食べてくれ

- A (ド「ー」ゾ) ア「ガ」ッテ (多) / ア「ガ」ッテ「ョー」デア「ー」 (多) / タ「ベテ」ヨ / タ「ベテ」ョー / タ「ベテ」ョー「デア」ー
B (ド「ー」ゾ) オ「アガ」リアスワ「シテ」 / オ「アガ」リアスワ「シテ」ョー「デア」ー / ア「ガ」ッテ「ョー」デア「ー」モ (古)
C (ド「ー」ゾ) オ「アガ」レァースワ「シテ」ョー「デア」ー / ア「ガ」ッテ「ョー」デア「ー」アスワ「セ」

(10) その写真を私に見せてくれないか

- A (ソ「ノ」シャ「シン」ワ「タシニ」) ミ「セテ」 / ミ「セテ」ョー / ミ「セテ」ョー「デア」ー (やや丁寧) / ヨ「コ」ットミ「セテ」マエン「カ」ネ (多) / ヨ「コ」ットミ「セテ」ョー「セ」ン「カ」(ぞんざい) / ヨ「コ」ットミ「セテ」マエン「カ」(古・男性言葉・同等～目下の者に対して)
B (ヨ「コ」ット「ワ」タシニ「ソ」ノ「シャ」シン) ミ「セテ」ョー「デア」アスワ「セ」

／ミ「セテチヨ－デア－アスワセ」ンカナ「モ」(古)

C (チヨ「ットワ「タシニ」ソ「ノシャシン」)ミ「セテチヨ－デア－アスワ」セ
／ミ「セテチヨ－デア－アスワセ」ンカナ「モ」(古)／ヘア「－ケンサシテマ
エマセ」ンカナ「モ」(古・少)

1-2, 第三者敬語

(11) あしたは家に居るだろう

A (友人のことを別の友人に) (ア「シタ」ワウ「チ」ニ)イ「レア」ースデ「シ
ョー(多)／イ「レア」ッスデ「ショ－(多)／オ「レア」ースデ「ショ－(多)
／オ「レア」ッスデ「ショ－(多)／オ「ラッセ」ルダロー／ゴ「ザ」ルダロー
(男性言葉・ぞんざい)

B (年長の人のことを友人に) (ア「シタ」ワウ「チ」ニ)イ「レア」ースンデ「
ネア」ー「ア(多)／オ「ラッセ」ルンデ「ネア」ー「ア／ゴ「ザ」ルンデ「ネ
ア」ー「ア

C (目上の人のことを友人に) (ア「シタ」ワウ「チ」ニ)ミ「エ」ルンデ「ネア
」ー「ア／オ「ミエニナ」ルンデ「ネア」ー「ア(かなり丁寧)

(12) 居なかった

A (友人のことを別の友人に)イ「レア－セナ」ンダ／イ「レアッセナ」ンダ／ゴ
「ザラナ」ンダ／オ「ラッセナ」ンダ／オ「ラッセ」セ「ナ」ンダ(丁寧)／ゴ
「ザラッセ」セ「ナ」ンダ(男性言葉・丁寧)

B (年長の人のことを友人に)イ「レア－セナ」ンダ／イ「レアッセナ」ンダ／オ
「レア－セナ」ンダ／オ「ラッセ」セ「ナ」ンダ／ゴ「ザラッセ」セ「ナ」ンダ
(男性言葉)

C (目上の人のことを友人に)イ「レアッセセナ」ンダ／オ「レア－スワセナ」ン
ダ

(13) そう言った

A (友人のことを年長の人に)ソ「－」ハ「ネア－トリマ」シタ

B (別の年長の人のことを年長の人に) (ソ「－」)イッ「テミ」エタ／イッ「テ
レア」ーシタ／イッ「テレア」シタ／イッ「トレア」ーシタ／イッ「トレア」シ
タ

C (目上の人のことを年長の人に) (ソ「－」)イッ「テミエマ」シタ／イッ「ト
レア－スワ」シタ／ハ「ネア－テレア」シタデ「ナ」モ(古)／ハ「ネア－テレ
ア－スワ」シタワ「ナ」モ(古)

(14) 今そこに行っていた

A (別の友人のことを友人に)イ「マソ」コエー「イッ「ト」ッタガネ

B (年長の人のことを友人に)イ「マソ」コエー「イッ「テゴザ」ッタニ

C (目上の人のことを友人に) イ^ㇿ マソ 「コエー^ㇿ イッ 「トラッセ^ㇿ タニ

(15) 来ている

A1 (別の友人のことを友人に) キ 「ト^ㇿ ル

B1 (年長の人のことを友人に) キ 「テゴザ^ㇿ ルンダワ

C1 (目上の人のことを友人に) キ 「テミエ^ㇿ ルンダワ

A2 (友人のことを年長の人に) キ 「テマ^ㇿ スワ / キ 「トリマ^ㇿ ス

B2 (別の年長の人のことを年長の人に) ミ 「エテマ^ㇿ ス / オエ 「ーデニナ^ㇿ ットル
 / オエ 「ーデニナ^ㇿ ットリマ^ㇿ スワ (丁寧)

C2 (目上の人のことを年長の人に) オ 「ミエニナ^ㇿ ットリマ^ㇿ スワ / キ 「トラレマ^ㇿ
 ス

A3 (友人のことを目上の人に) キ 「トリマ^ㇿ ス

B3 (年長の人のことを目上の人に) ミ 「エテマ^ㇿ ス

C3 (別の目上の人のことを目上の人に) オ 「ミエニナ^ㇿ ットリマ^ㇿ スワ / キ 「トラレ
 マ^ㇿ ス

(16) (仕事を) している

A (年長の人のことを友人に) シ 「テミエ^ㇿ ル (多) / ナ 「サッテミエ^ㇿ ル / シ 「
 トラレ^ㇿ ル (やや丁寧) / シ 「テイラッシャ^ㇿ ル (共通語)

B (目上の人のことを友人に) シ 「テラッセ^ㇿ ル / シ 「テラースワ^ㇿ ス / シ 「ト
 レアースワ^ㇿ ス

(17) 見せてもらった

A (友人からのことを別の友人に) ミ 「セテマッタ (多) / ミ 「セテモラッタ

B (年長の人からのことを友人に) ミ 「セテマッタ^ㇿ ワー / ミ 「セテ^ㇿ イ 「タデア
 ー^ㇿ タ

C (目上の人からのことを友人に) ミ 「セテマッテネ / ミ 「セテ^ㇿ イ 「タデア^ㇿ ー
 タワネー

(18) 見せてくれた

A (友人がのことを別の友人に) ミ 「セテク^ㇿ レタ

B (年長の人からのことを友人に) ミ 「セテクダサ^ㇿ ッタ / ミ 「セテクデア^ㇿ ー^ㇿ タ
 (名古屋周辺農村部言葉) / ミ 「セテクダ^ㇿ レテネー (少) / ミ 「セテクダ^ㇿ
 レタンダワー (名古屋周辺農村部言葉)

C (目上の人からのことを友人に) ミ 「セテクダサ^ㇿ ッタ / ミ 「セテクデア^ㇿ ー^ㇿ タ
 (名古屋周辺農村部言葉)

(19) 私にくださった

A (別の年長の人からのことを年長の人に) ワ 「タシニ^ㇿ モ 「ラ^ㇿ エタンデス 「ワ

B (目上の人からのことを年長の人に) ワ 「タシニ^ㇿ チョ 「ーデアー^ㇿ シ 「タ^ㇿ

ンダワ

C2 (年長の人からのことを目上の人に) ワ「タシニ」イ「タデア」ータ

(20) いただいた

A1 (別の友人からのことを友人に) モ「ラッタ」ンダワ

B1 (年長の人からのことを友人に) モ「ラッタ」ンダワ

C1 (目上の人からのことを友人に) チョ「ーデアー」シ「タ」ンダワ

A2 (友人からのことを年長の人に) モ「レァーマ」シタ／ク「レマ」シテ「ナ」モ
(古)

B2 (別の年長の人からのことを年長の人に) イ「タダキマ」シタ／チョ「ーデアー」シマ」シタワ

C2 (目上の人からのことを年長の人に) チョ「ーデアー」シ「マ」シタンデスワナ
「モ(古)

A3 (友人からのことを目上の人に) モ「レァーマ」シタ／ク「レマ」シテ「ナ」モ
(古)

B3 (年長の人からのことを目上の人に) イ「タダキマ」シタ

C3 (別の目上の人からのことを目上の人に) チョ「ーデアー」シ「タ」ンデスワ／
チョ「ーデアー」シ「マ」シタンデスワナ「モ(古)／チョ「ーデアー」シ「マ」
シテ「ナ」モ(古)

2. 謙譲表現

2-1. 謙譲表現

(21) 私も(元気だよ)

A コッ「チ」モ(多)／ワ「タシ」モ

B オ「カゲサマデ「ゲ」ンキデオ「リマ」ス

<年長には「私も」を言わない>

C オ「カゲサマデ「ゲ」ンキデオ「リマ」スワナ「モ(古)

<目上には「私も」を言わない>

(22) 十分に食べました

A ジュ「ーブ」ンシ「マ」シタ

B (ジュ「ーブ」ンニ) イ「タダキマ」シタ／チョ「ーデアー」シ「マ」シタ

C ジュ「ーブ」ンニチョ「ーデアー」イ「タシマ」シタ

(23) 持ちましょう

A モッ「テタゲ」ル／モッ「テタゲヨ」ーカ／モッ「タゲヨ」カ

B オ「モチ」シ「マショ」ー(カ)

C オ「モチ」シ「マショ」ー(カ)

(24) 待たせたね

A マツ 「トテマッテ」 ゴ 「メ」 ンネ

B オ 「マタセシマ」 シタ / エ 「レ」 ー オ 「マタセシテ」 ス 「ミマセ」 ン 「デ」 シ
タ

C エ 「レ」 ー オ 「マタセシマ」 シテ ス 「ミマセ」 ン 「デ」 シタ

(25) (駅で) 待っていますよ

A マツ 「ト」 ルワネ

B オ 「マチ」 シ 「トリマ」 ス / オ 「マチ」 シ 「トリマ」 スデ 「ナ」 モ (古)

C オ 「マチ」 シ 「トリマ」 ス / オ 「マチ」 シ 「トリマ」 スデ 「ナ」 モ (古)

(26) (すぐ帰るからと) 言ってくれ

A イッ 「トイテ」 ネー

B イッ 「トエーテ」 チョ 「ーデア」 ース

C ツ 「テアトエーテ」 チョ 「ーデア」 ースカ

(27) これをあげよう

A コ 「レ」 ア 「ゲ」 ルワ / コ 「レ」 ア 「ゲヨ」 カ

B コ 「レ」 サ 「シアゲマショ」 カ (多) / コ 「レ」 ア 「ゲマショ」 カ

C コ 「レ」 モ 「ラッテ」 イ 「タダケマ」 スカ / コ 「レ」 モ 「ラッテ」 イ 「タダケ
マ」 スカナ 「モ」 (古)

2-2, 身内敬語

(28) 買ってやった

A カッ 「タッテネ」 ー / カッ 「タッテナ」 モ (古) / カッ 「タッタ」 ンダ 「ワー」
カッ 「テア」 ゲテ 「ネ (若い世代の言葉)

B カッ 「テヤリマ」 シテ 「ネー」 / カッ 「テヤリマ」 シテ 「ナ」 モ (古)

C カッ 「テヤリマ」 シテ 「ネー」 / カッ 「テヤリマ」 シテ 「ナ」 モ (古) / カッ 「テ
ヤリマ」 シタワナ 「モ (古)

(29) (主人はもう) 帰っている

A ケア 「ーテキト」 ルヨ / カ 「エッテキト」 ルヨ

B カ 「エットリマ」 ス (多) / カ 「エッテオリマ」 ス

C ケア 「ーテキトリマ」 ス (多) / ケア 「ーテキテ」 オ 「リマ」 ス

3, 丁寧表現

(30) 行くよ

A イ 「ク」 ヨー

B エ 「ーイ」 キマ」 ス

C エ 「ーメ」 ーリマ」 ス (多) / エ 「ーイ」 キマ」 ス

(31) (今日は) 寒いね

A セア 「ームィーネ」 ー

Bセァ「ムィー」デス「ネー（多）／オ「サム」イネー

Cオ「サム」ゴ「ゼァーマ」ス

(32) 居るよ

Aオ「ルヨー（多）／イ「ルヨー

Bオ「リマス

Cオ「リマス

(33) よかったねえ

Aヨ「カ」ッタ「ネー

Bヨ「カ」ッタデス「ネー／ヨ「カ」ッタワ「ナ」モ（古）

Cヨ「ーゴ「ゼァーマ」シタ「ネー／ヨ「ーゴ「ゼァーマ」シタ「ナ」モ（古）

(34) -1「そうですか」の意のあいづち

Aホ「ーン「ホ」ン（多）／フ「ーン「フ」ン／ホ「ーカ「ホ」ーカ（聞）

Bソ「ーデスカ「ソ」ーデスカ

Cソ「ーデゴ「ゼァーマ」スカ／ソ「ーデ「ゴゼァーマ」スカ「ナ」モ（古）

(34) -2同意のあいづち

Aソ「ー「ソ」オ／ソ「ーダワ「ナ」モ（古）

Bソ「ーデスワ「ナ」モ（古）

Cソ「ーデゴ「ゼァーマ」ス「ナ」モ（古）

4. 人間関係に応じた待遇表現

4-1. 特定表現の待遇表現

(35) (その角を)曲がって右へ行くと

マ「ガッテマッテ」ミ「ギ」ーイッ「テマウト（多）

ミ「ギ」ーイッ「テマウトセァ」ーガ（若い世代の言葉）

(36) とんでもない（私ではないよ）

ヨ「ーイワンワ（ワ「タシデネァ」ーヨ）（多）／チ「ガ」ウチ「ガ」ウ（若い世代の言葉）／チャ「ウ」ヨチャ「ウ」ヨ（若い世代の言葉）

<トンドモゴザイマセンは使わない>

4-2. 多人数場面の待遇表現

(37) 世話役などを頼まれて、それを引き受ける時の表現

マ「ニエァーマセ」ン「ケ」ド ヒ「キウケサシテ」モ「レァーマ」ス

オ「ヤクニ」タ「チマセ」ンケド ヒ「キウケサシテ」イ「タダキマ」ス

(38) 旅行への参加が少ないので、参加者を募る意の挨拶をする時の表現

コ「ンドノ」リョ「コーニ」ワ「ク」ルシトガス「クネァ」ーデミ「ンナ「ド」ーゾキ「テチョーデァ」ーヨ／コ「ンドノ」リョ「コーワ」イ「ラッセ」ルシトガス「クネァ」ーデミ「ナ」サマキ「テチョーデァ」ーア「スワ」セ（丁寧）

4-3, 位相による待遇表現

(39) <朝の挨拶>・どこへ行くのか

- 1, お寺の住職さん：オ「ハヨー」ゴ「ゼァーマ」ス・ド「チレァー」オ「デカケ
デ」ゴ「ゼァーマ」スカナ「モ」(古) / ド「チレァー」オ「デカケァース
ワ」スカナ「モ」(古) / イ「マカラド」コェー「イ」ケァースアスバ「ス
カナ」モ」(古)
- 2, 校長先生：<同上>
- 3, 見知らぬ年配の男性：オ「ハヨー」ゴ「ゼァーマ」ス・オ「デカケデ」スカ
/ オ「デカケカナモ」(古)
- 4, 見知らぬ年配の女性：<同上>
- 5, 顔見知りの年上の男性：<同上>
- 6, 顔見知りの年上の女性：<同上>
- 7, 10歳ほど年下の見知らぬ男性：オ「ハヨー」ゴ「ゼァーマ」ス・オ「デカケ
デ」スカ
- 8, 10歳ほど年下の見知らぬ女性：<同上>
- 9, 同級生の男性：オ「ハヨ(-)」ド「コェー」イ「ケァ」ースー / ド「コ
コェー」イ「クノ」ー
- 10, 同級生の女性：<同上>
- 11, 10歳ほど年下の顔見知りの男性：オ「ハヨー」ゴ「ゼァーマ」ス・ド「コ
コェー」イ「ケァ」ースー / ド「コェー」イ「クノ」ー
- 12, 10歳ほど年下の顔見知りの女性：<同上>
- 13, 近所の中学校の男の子：オ「ハヨ(-)」ド「コェー」イ「クノ」ー
- 14, 近所の中学生の女の子：<同上>
- 15, 親しい友人の男性・女性：オ「ハヨ(-)」ド「コェー」イ「ケァ」ース
ー / ド「コェー」イ「クノ」ー
- 16, 近所の3, 40歳代の顔見知りの男性・女性：オ「ハヨー」ゴ「ゼァーマ」ス
・ド「コェー」オ「デカケデ」スカー(今) / オ「ハヨー」ド「コェー」
オ「デカケァ」ース(-) (昔)
- 17, 実父・実母：オ「ハヨー」ド「コェー」イ「ケァ」ース
- 18, 夫：<同上>
- 19, 息子・娘：オ「ハヨー」ド「コエ」イ「クノ」ー
- 20, 嫁：オ「ハヨー」ド「コエ」イ「ケァ」ース

Ⅲ. まとめ

- 1, ミエル・～テミエル：「居る」・「～て居る」の意の敬意表現。

ミエマスカ（居ますか）・キテミエル（来て居ます）など。

多くは年長や目上の者に対して使用するが、同等の者に対しても丁寧に接する場合には使用する。当地では年齢層に関係なく、共通語意識のもとで使用し、その頻度は高い。

2, ゴザル・～テゴザル：「居る」・「～て居る」の意の敬意表現。

ゴザラナンダ（居なかった）・キテゴザルンダワ（来て居ますよ）など。

高年層の男性が「居る」の他、「行く」「来る」の意で多用する表現だが、女性では会話の中に出てくる第三者が目上の場合に、そして「居る」・「～て居る」の意のみで使用する。

3, オイデル：「居る」「行く」「来る」の意の敬意表現。

オイデアースワスカナモ（居ますかね）・オイデアスワセンカナモ（行きませんか）
・オエーデニナツル（来て居ます）など。

高年層が、年長や目上の者に対して使用する表現で、その使用頻度は高い。

4, (オ)アガル：「食べる」の敬意表現である「召し上がる」の略。

アガッテチャーデー（食べてください）・オアガリアスワシテ（食べて）など。

高年層、特に女性の使用が多く、年長や目上の者に対して、または同等の者でも丁寧に接する場合に使用する。

5, チョーデー・～テチャーデー：

①「ください」・「～てください」の意であるチャーダイ・～テチャーダイの訛化。

ミセテチャーデー（見せてください）など。

高年層が、年長や目上の者に対して、また同等の者でも丁寧に接する場合に使用し、その使用頻度は高い。

本調査ではあまり出現しなかったが、同等や目下の者に対しては、チャーデーを略したチョ（一）を多く使用し、親しみを込めた表現となっている。

ミセテチャーセンカ（見せてくれないか）など。

②「もらう」の敬意表現でもある。

チャーデーシタンダワ（いただいた）など。

高年層での使用頻度は高く、第三者が年長や目上の者である場合に使用する。

6, ～テマウ：謙譲表現である～テモラウの訛化。親愛表現でもある。

ミセテマッタ（見せてもらった）・イッテマウトセーガ（行ってもらうと）など。

高年層での使用頻度は高い。

7, ～セル：敬意表現である～シャルの訛化で、敬意の中にも親しみを込めた表現。

オラッセナンダ（居らっしゃらなかった）・オゲンキデイラッセマスカナモ（元気でいらしゃいますか）など。

高年層での使用頻度は高く、年長や目上の者に対して多用するが、同等の者にも丁寧に接する場合に使用する。

8, ～レル・ラレルによる敬意表現

イカレル：「行く」の意の敬意表現。イカレマセンカ（行きませんか）

クダレル：「くれる」の意の敬意表現。ミセテクダレテネー（見せてくれてね）

高年層では年長や目上の者に対して多用され、その使用頻度は高い。

一説に、当地で年齢層に関係なく多用されている～ヤー（例えばイラー・コヤー（来い）など）も～レル・ラレルが付いて訛った表現といわれている。

9-1, ～アソバス（アスバス）：「～になる」の意で、敬意の程度の高い表現。

オイデアソバサレマスカ（居ますか）・イキヤースアスバスカナモ（行きますか）など。

高年層、特に女性が多用する表現で、「名古屋上町言葉」の中でも、最上位場面で、目上の者に対して使用する敬意の最も高い表現であるが、現在ではほとんど使用しない。

9-2, ～アスワス：～アソバス（アスバス）の訛った敬意表現。

キテチョーダーアスワセ（来て下さい）・オアガリアスワシテチョーダー（食べて下さい）など。

これも高年層、特に女性が多用する表現で、年長や目上の者に対して使用するが、これもやはり現在ではほとんど使用しない。

9-3, ～ヤースワス・ヤッスワス：～アスワスの訛った敬意表現で、親しみを込めた表現である。

ヤレースワスカナモ・ヤレァッスワスカナモ（なさいますか）など。

これも高年層、特に女性が多用する表現で、年長や目上の者に対して使用するが、これもやはり現在ではほとんど使用しない。

9-4, ～ヤース・ヤッス：～ヤースワス・ヤッスワスがさらに訛った表現で、ややくだけた親愛表現でもある。

ヤレースー・ヤレァッスー（するか）・ヤレァーセンカ（やらないか）など。

年長や目上の者の他、同等の者に対しても多用し、これは、現在でも高年層の間ではかなり頻繁に使用されている。

10, ～ヤー：～ヤース・ヤッスがさらに訛ったとも、～ヤレが付いて訛ったとも、～レル・ラレルが付いて訛ったともいわれる表現で、親しみを込めた、ややもするとぞんざいな表現である。

ミヤーター（見たか）・ネヤータノー（寝たのか）など。

今回の調査ではあまり出現しなかったが、当地では年齢層に関係なく、その使用頻度は高く、同等や目下の者に対して多用する。

（おおたうたこ 椋山女学園大学文学部）